
探偵は今夜も眠らない

ライト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

探偵は今夜も眠らない

【Zコード】

N8031Y

【作者名】

ライト

【あらすじ】

都内某所で探偵事務所をしている僕は、オンラインの呪いにかけられて眠りに落ちいると同時に呼吸が止まってしまうらしい、そんな僕が先月探した猫の飼い主がお礼だといい、知り合いが経営している旅館の宿泊無料券をくれた。そこに行くことにより事件に巻き込まれる

タクシーを降りると目の前には絶景が広がっていた
「紅葉の季節だな」と呟きながら歩き出す。

旅館になかになると、若い男性が話しかけてきた。

「いらっしゃいませ、予約の方ですか？」

「これを持つていけば大丈夫だと言われたのですが…」

と僕はポケットの中についたチケットを見せた

「無料券です、4泊の方ですね？部屋にご案内します」
そう言い、僕の鞄を持ち、2階の隅の部屋へ案内された
部屋の内装は良いものだった、和室で落ち着く
「ご夕食の時間まではまだ多少時間がありますので」
と若い男性が部屋を出ていこうとしたときにふと止まり、
「私はここに若旦那の小林と申します」

と軽くお辞儀をし部屋を出ていった

「眠いな、でも寝たら死ぬし散歩でも行くか

とりあえず外の空気を吸うこととした。

1時間後

僕は夕飯を食べるため旅館内にあるレストランへ向かった
レストランへ向かうと何人かはもう席についていた。

ここはバイキング形式で、好きなもの自分で選ぶシステムらしい。
とりあえず適当にとり、窓側の席に座った。

しばらく無言で口に運んでいると、

「おいしいですか？」

声が聞こえた方に顔を向けると、若旦那が立っていた。

「ええ、とてもおいしいですよ」といつと
「それは良かったです」

と嬉しそうに言った。

しばらくしたあと、僕は部屋に戻り、PCの電源をつけた
寝れない僕にとっては夜という時間はとても暇なのだ
暇つぶしここの旅館のことを調べていると、

この旅館は口コミでも評判が良く、有名人もたまに来るらしい。
そんな旅館に無料で泊まれるなんて、僕は幸運だなと思いながら、
ネットに目を向ける、そうしてしばらく僕は気になつた記事を見つけた。

2年前にここの旅館の娘が行方不明になるという事件だ。
まだ見つかっていないらしい

「あした調べてもらつか」「携帯をポケットからだし、
その後、「やっぱりやめようかな…」と
とある刑事の顔を思い出す。

あしたのことは明日考えよう」と僕はマウスの画面に目を向けるのだった。

旅館での出来事 1日目（後書き）

初投稿になります、初心者故、暖かく見守ってください www

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8031y/>

探偵は今夜も眠らない

2011年11月23日21時52分発行